

## ケニア、ナイロビ郊外で初めて発見されたアウストラロピテクス

(題目邦訳) カンティス：ケニア、ナイロビ郊外にある大地溝帯断層崖上の新しいアウストラロピテクス化石産地

Journal of Human Evolution (人類進化学雑誌) 5月号掲載

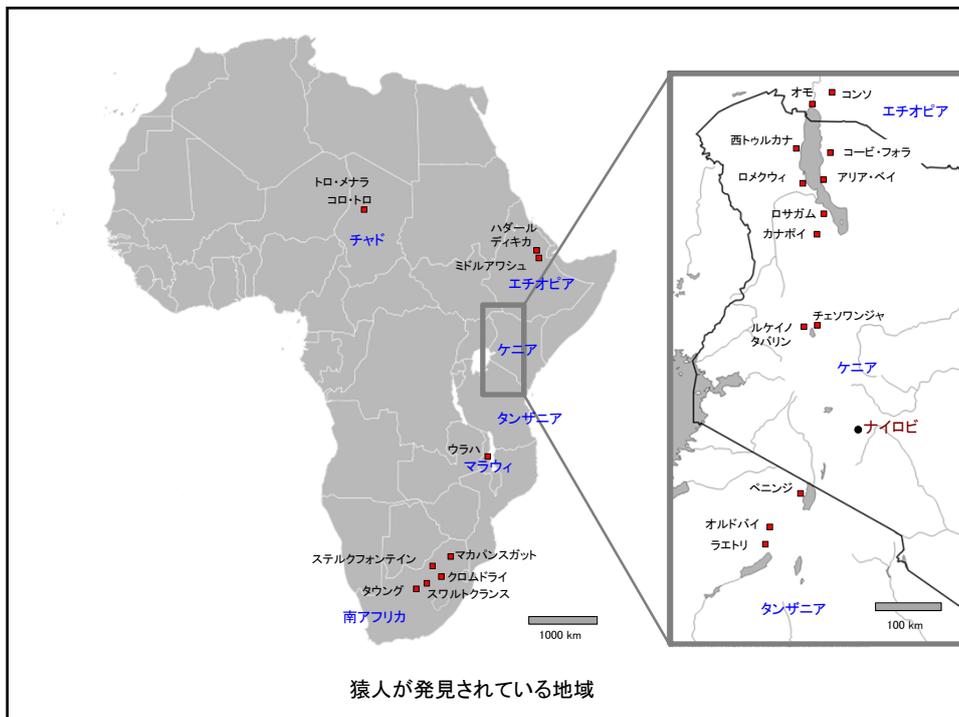
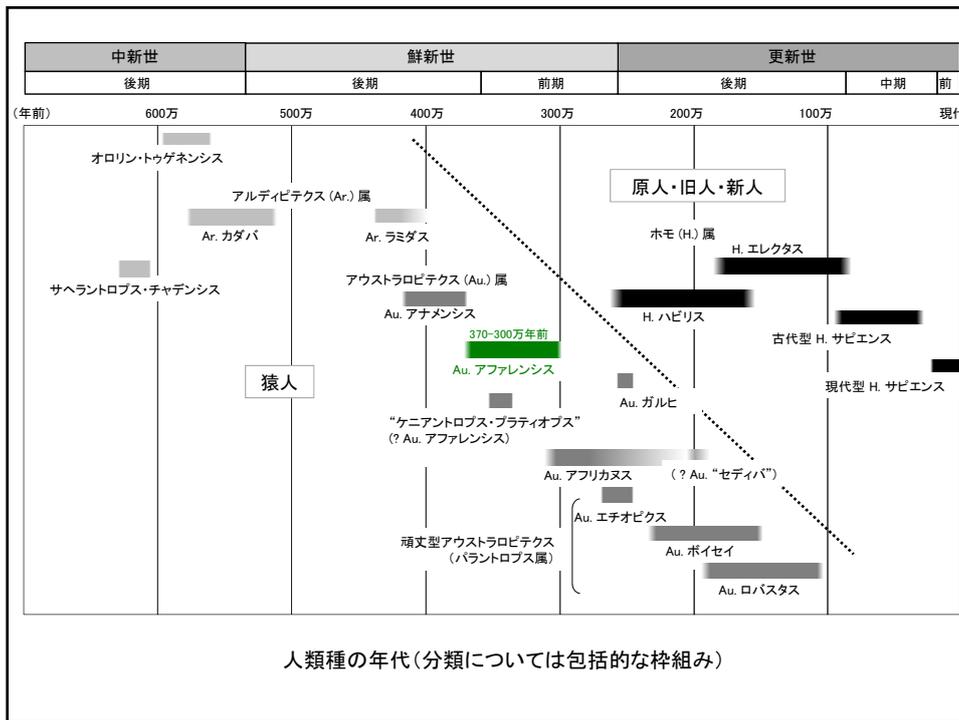
東アフリカに位置するエチオピア、ケニア、タンザニアは鮮新世<sup>1)</sup>人類化石の産地として知られるが、それら全ては、都市から隔離し、乾燥したアフリカ大地溝帯の内部にある。ケニアと日本が中心となった国際チームは、大地溝帯の断層崖上に位置するナイロビ郊外のカンティス<sup>2)</sup>(高度 1700m)において、初めて大地溝帯以東から猿人化石を発見した。化石産出層の年代を放射年代測定と古地磁気により 350 万年前と決定し、化石の特徴からアウストラロピテクス・アフレンシス<sup>3)</sup>と同定した。4 点の化石から、少なくとも成人男性 1 人と乳児 2 人の存在が確認された。1995 年にチャドで猿人化石が発見され、猿人の分布がアフリカ中部に広がっていた事が明らかになったが、同様に大地溝帯を越えて東部に広がり猿人が棲息していた可能性が示された点はきわめて重要である。また、ケニアの南部地域で猿人化石の発見は初めてであり、カンティスは、エチオピアからタンザニアにいたるアフレンシス猿人の分布の空白域を埋めたことになる。

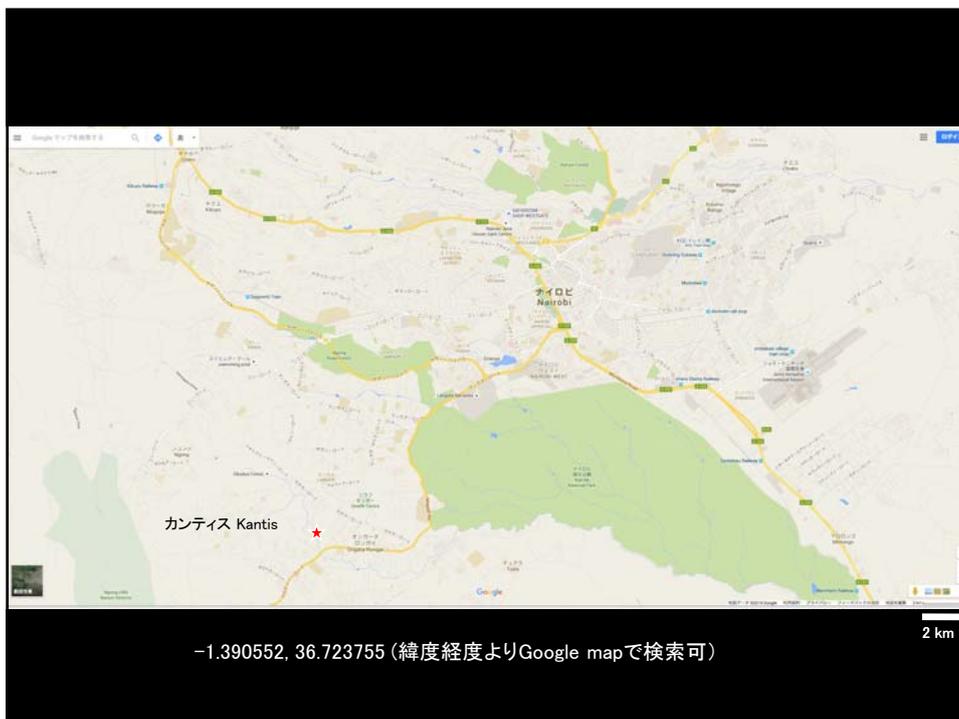
カンティスから発見された哺乳類の多くは、同時代の大地溝帯底の化石産地で知られているものと属レベルでは共通するが、新種も認められた。化石の安定同位体分析<sup>4)</sup>、動物相の分析から、カンティスは湿潤ではあったが、大地溝帯底の化石産地に比べ、より樹木が少ない草原環境であった事が示された。種の違いはそうした環境の差に関係した可能性がある。この点は、アフレンシス猿人の環境適応能力の高さを示唆する。

他の鮮新世化石産地と異なる特性から、カンティスは、研究上貴重な遺跡であると同時に、ナイロビ近郊という立地条件から、同国の教育・観光面において、非常に大きな可能性をもつ。残念ながら、ナイロビにおける近年の急速な宅地開発が遺跡の近くに迫っており、遺跡の保存が喫緊の課題である。

この調査は、日本学術振興会二国間交流事業、リーキー財団、ウェンナーグレン財団、古生物科学基金等の補助を受けて行われた。

- 1) 地質時代区分。530-260 万年前。
- 2) ナイロビのベッドタウン、オンガタ・ロンガイ地区。
- 3) 棲息年代は 370 万年-300 万年前。エチオピアで発見された女性骨格「ルーシー」やタンザニア、ラエトリの足跡化石で知られる。
- 4) 植物食哺乳類の歯化石に含まれる炭素の同位体比から消費した植物が森林性かサバンナ性かが推定できる。









ナイロビ郊外オンガタ・ロンガイ地区：星印が遺跡